

令和4年度 上矢部地域ケアプラザPDCAシート（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

上矢部地域ケアプラザは、上矢部町・鳥が丘・矢部町が、上矢部連合町内会と戸塚第三地区連合町内会の2つの連合に分かれている。マンション等が建ち、子供のいる世帯が増えている地域もあるが、高齢化率が40.7%を超えているエリアもある。高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯も増加している。特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため各種行事が中止または縮小となり、高齢者の活動の機会が極端に減少したため、令和3年度は少しでも多く講座や行事が再開できるよう工夫をし、少しずつではあるが高齢者の居場所づくりが出来た。しかし、地域の全体的な現状把握が難しくなる一方、老老介護や支援を拒否して孤立する世帯、虐待など多問題を抱え生活が困難になるケースが浮き彫りになってきた。

そこで今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、地域の現状を再確認し、ICTを活用した活動の検討を行う。ケアプラザ内もしくは昨年以上に地域に向いて講座等を開催し、ケアプラザエリア全体に情報発信をしていく。その中で地域住民とともに考え、見守り支援グループと連携しながら地域の課題やニーズ及び個別の問題に対応していく。

新規
継続

— 具体的な取組内容 —

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<地域交流>事業の様子(ボランティア活動)を館内に掲示して、感染対策を取りながら活動していることを地域の方に知っていただき、参加者やボランティア募集につなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<地域ケア会議>地域ケア会議や民生委員とケアマネジャーの連絡会等を通して、個別課題や地域活動の解決に関して関係機関と地域住民に必要な情報を届け、両者を結び付けて支援につなげていく。昨年度、新型コロナウイルス感染者増加により延期となった戸塚第三地区を対象とした第2回の民生委員・ケアマネジャー情報交換会を今年度開催する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<介護予防事業>町内会館や自治会館を利用し介護予防に向き、活動の維持・発展について支援していく。また、新型コロナウイルス感染対策を取り、出来るだけ講座が途切れなく開催できるように支援していく。自主的な活動につなげるための相談を継続し、講師等の派遣をしながら後方支援を行う。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<生活支援体制整備事業>戸塚第三地区見守りネットワーク事業の活動を地域に知ってもらうため、年に2回の広報誌に加え、社協やケアプラザの広報誌でも活動紹介をする。また、会合にて活動周知のための提案をする。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<権利擁護>講座開催時のアンケート調査にて、成年後見制度・終活に対する関心が高かった為、R4年度は成年後見制度や終活(遺言・相続等)についての講座を年1~2回開催企画をする。また、地域からの依頼に応じて、地域のサロン等に向き、エンディングノートや消費者トラブル予防についてのミニ講座を実施する。さらに、広報誌等で普及啓発を行う。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度の総合相談の傾向としては、昨年度に引き続き、虐待や生活困窮、支援介入拒否、老々介護等多問題ケースの相談が増加傾向にあり、区や関係機関と連携しながら対応中。

事業全般としては新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、横浜市及び戸塚区の指導に従って実施した。地域住民からの要望が多い歌の講座も実施することができ、クリスマスコンサート等例年大人数が集まっていた事業も人数を絞って実施できた。

- ・新たな担い手の洗い出しを目的とした講座を開催し、6名の方を自主事業での活動につなげられた。
- ・戸塚第三地区を対象とした民生委員・ケアマネジャーの情報交換会兼地域ケア会議を開催した。民生委員とケアマネジャーと地域の課題を共有し、独居・集合住宅のアウトリーチについて課題が表面化したため今後個別ケア会議開催を検討していく。
- ・戸塚第三地区見守りネットワークは連合の町内会長に活動を理解してもらうための研修会を11月14日に開催した。坂本グリーンこころんプロジェクトは8月30日に3年振りにマップ作りを再開し、独居になられた方が増えていることを確認した。こころんカフェの再開については検討中。
- ・介護予防事業については、通いの場も再開し参加者を増やすため、リーダーと話し合い講師調整等を行った。担い手の育成も行い、介護予防教室へのボランティアも増えた。町内からの介護予防教室への開催の希望があり支援している。
- ・権利擁護事業については、介護者のつどいを3か月に1回定期開催し、介護者支援や虐待予防などを図った。また、福祉サロンにて、行政書士を招いて各士業の専門分野や日常の困りごとの相談先の周知や、認知症サポーター養成講座にて、地域における認知症についての理解を深めた。エンディングノートについては、老人会からの依頼により、ふくしものしり大学DVDを活用し、出張講座を開催している。また、介護予防の健康講座や、ケアマネ向けのサロンにおいても普及啓発を行った。消費者トラブルについては、広報誌にて実際地域で相談があった事例について注意喚起を行った。

区からのコメント

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に留意しながら、各地域で様々な活動が少しずつ再開していく年となりました。世代や分野を問わず、様々な相談を受け止めることで地域の困りごとや住民のニーズを把握し、各職種の専門性を生かしながら取組を進めてくださっています。

上矢部地域ケアプラザでは物理的に活動場所がない地区では汲沢など近隣の他地区と協力したり、出張講座を開かれたりとアウトリーチ型の取組も積極的に行われているのが印象的です。今後もそのような住民に寄り添った活動を続けていっていただきたいです。

地域包括支援センター運営事業においては、身近な福祉・保健の拠点として、保健師等、社会福祉士等及び主任介護支援専門員等のチームアプローチで介護予防支援や包括的支援を行っていただきました。

次年度も地域ケアプラザの強みを生かし、専門的な支援と地域住民による支援の両輪で進めていただきたいと考えております。戸塚区民の安全・安心のために、地域ケアプラザと区役所で力を合わせて取り組んでいきましょう。